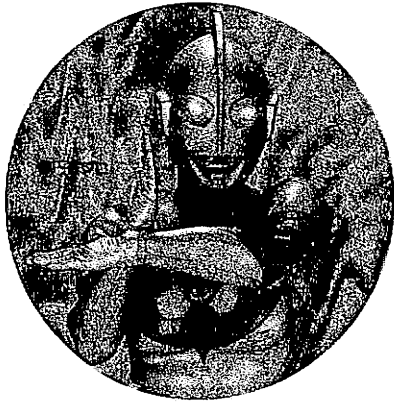


'02 積雪期 山行報告書 & 1年の総括



フッフッフッ
今年は雪解けが
はやいだろう！

ヤ〜ン



信州大学山岳会 (SAC)

目次

錫杖岳前衛フェース左方カンテ	2
八ヶ岳・信州・法政合同合宿	4
南アルプス 聖岳～光岳	6
唐沢岳幕岩	8
霞沢岳上千丈沢左稜	11
甲斐駒ヶ岳	12
雪訓合宿	13
01年度 個人の総括	15

錫杖岳前衛フェース左方カンテ

12月8・9日 横山勝丘(4) 岸本俊朗(5)

7日夜、ゼミを終わらせてから出発。あー、それにしても最悪のゼミだった。まあ、終わってしまえばこっちのものですから…。

8日、朝4時半起床のはずが…。前の日徹夜だったために大幅に寝坊。6時45分起床。急いで出発。雪はほとんどなく、快適なアプローチ。CMCのパーティと前後しつつ取付まで。見上げる前衛フェースは雪がほとんどなく、果たして冬壁と言えるのだろうか？ミックスできるのお～？と心配になってしまう。取付で準備していると、とんでもないことに気づく。まあ、大したことはないのだが、ロープが片方40mしかない。この時点で①寝坊②ギア足らず→今日中に上まで抜けるのは無理。ということになってしまった。

本来は烏帽子の基部の洞穴で快適にビバークし、翌日烏帽子南壁右ルートを登って下山の予定で、そのためになんと冬用羽毛シュラフまでもってきていた。無用の長物にならぬよう無理とは思いつつもできる限り上まで抜けるよう頑張ることにして登攀開始。

1P目、簡単なルンゼを岸本さんリード。

2P目、横山リード。IV+の部分で少し緊張するが問題なし。フリーで抜ける。快適。ピナクルのあるテラスまで。

3P目、岸本さんリード。ボルト連打の人工から、ハングの抜け口のフリーが悪い。チムニー下のテラスまで。

4P目、チムニーからフェース。横山リード。チムニーフリーで抜けたぜ。荷物重い！なんなんだ、いったい。

5P目、岸本さんリード。簡単なルンゼを大テラスまで。この時点で時間も押し迫ってきたが、何も考えていなくてそのまま続行。

6P目、岸本さんリード。このルートの核心。途中ピトンを2枚打つ。最上部、カンテからスラブへと抜ける抜け口が相当悪い。あぶみ最上段から草付にダブルアックスでぶら下がり抜ける。リードはもちろん、フォローも緊張。このピッチを終える頃にはすでに暗くなっており、この終了点でビバークすることに。

あ～、さっきのテラスだったら快適に寝られたのにい～。馬鹿馬鹿馬鹿。夕飯をすずり、いざ睡眠！僕は強引に羽毛シュラフをずりあげて寝る。岸本さんは寒くて寝られないようだ。雪も降ってきて、ようやく冬壁らしくなってきた。

9日、雪の降る中、残った最終7P目を横山リード。数mカムの人工からあとはひたすらフリー。立木でビレイ。

この時点で烏帽子は時間的に無理と判断。しかし、雪のついた烏帽子を見ておきたいということで、雪尾根を詰める。烏帽子岩までの尾根は意外にも緊張するところが

あり、おもしろい。膝までのラッセルを続けていくと、烏帽子はいきなり現れる。かっこいい…。またこよう。そう誓ってもと来た道に戻る。

終了点まで戻ってくると、ちょうどCMCパーティが登ってくるころだった。下降は注文の多い料理店側。北沢の雪がまだ少ない状況なら夏同様こちらを懸垂した方が良い。荷物をまとめ、下山。途中振り返る前衛フェースはやはり良い。槍見で露天風呂に入ってゴリラでアイスツバリ。そのまま帰松。

冬の錫杖について感じたことをいくつか。

まず、12月の左方カンテは3年生でやるべき課題だ。秋口にみっちり立岩でしこしこアイゼンワールドに慣れてさえいれば充分に登れ、楽しめるルートだと思う。意外にもルート上には雪や氷も多くあり、シーズン初頭にしてはなかなかエキサイティングなミックスが楽しめる。みなさん、これからの課題の1つに加えてみてはいかがでしょうか？

今回は諸々の事情により左方カンテのみとなってしまったが、本来の計画通り、烏帽子や本峰フェースへの継続も加えれば非常に充実した登攀が楽しめるはずだ。烏帽子には快適な洞穴があり、ビバークも楽である。また、本峰まで東尾根をトレースしても非常に楽しめるはずだ。冬はナイフリッジの続く快適な尾根になるだろう。また、未登と思われる氷柱も東尾根の左側にあり、冬を錫杖で楽しむことをぜひおすすめしたい。かくいう私もまだ今回一度しか冬の錫杖には行っておらず、来シーズンが今から楽しみである。

下降はやはり注文の多い料理店側がすっきりしていて非常に楽である。しかし、降雪直後などは沢に降り立ってからの雪崩に要注意である。

CMCパーティは我々が非常に大きな荷物を背負って登攀しているのにびっくりしたそうである。それもそのはず、羽毛シュラフ持参であったのだから。しかし、普段の冬壁であれば荷物は極力減らすべきである、当たり前のことだが。今回はいくつかの特別な条件が重なっただけのことである、あくまでも。

ギアに関しては、夏の本ちゃん装備に加えて、カムナッツ類をほんの少し。あとはダブルアックス。ほとんど使わないが、重要なところで使う。2種類ほどのフックがあると心強い。左方カンテ（特に12月の）に関しては、余計なギアはほとんどいらなないと言っても過言ではない。取付やすさ、グレイディング、しっかりした支点など、総合的に見て初めての冬壁の経験にはもってこいのいいルートである。

参考タイム（記録なくしたのであくまでも参考に）

8日 槍見730～930左方カンテ取付1000～1700最終ピッチ取付B・P

9日 B・P730～845終了点915～1015烏帽子東肩1030～1115

終了点1130～1300北沢1330～1430槍見

ムバ、大木、岸本、佐藤
井上、片寄、高谷

八ヶ岳山行 (信州・法政 合同合宿)

2/5 9:30 美濃戸口 ~ 南沢 ~ 13:30 行者小屋 T.S.

行者小屋に着くとすでに法政テントがあったが人はいない。お先に
の準備をすませて法政の帰りを待つ。「法政が帰ってきた!」
お母人的な喜声をあげて今日深夜遅くまでのみ会に明けくれた。そ
れにしても「脱ポン」話はスコかった。法政恐ろしい。

2/6 5:00 起床 ~ 6:55 出発 ~ 北後 ~ 10:35 阿称ダ岳山頂
~ 13:30 行者小屋 T.S. → 南沢大滝の調査

おむたい目玉こりながらの起床。今日は阿称ダ岳北後の小快適
なハイキング。D-70が1度も出ずに山頂到着。帰って来ると明日登
りにいく南沢大滝のまじり察知ルンゼを20分強はじくと下部の滝が
あり。その奥はみごとなブルーアイス。モクハシシオンが臆張した。テ
ン場では法政人がホットケーキを作ってくれた。皆ホットケーキ
をもらって興奮する。山でホットケーキか。

2/7 5:30 起床 ~ 6:50 出発 ~ 8:00 摩利支点 ~ 4:30 行者小屋 T.S.

昨日見た滝は(後日わかたことだが)南沢大滝で17mの摩利
支点であった。見事に垂直に切り立っている。すぐにかが抜けてしま
う。バールは重いし、ポンプも、自分の力を感じてしまった。今日
で大木、岸本、井上、片寄の4人は下山し、佐藤、高谷はまた山に
残り行者小屋へ。6人用ジャンボエアースト2人である。大の字で
おてくれた。ワッハッハ。

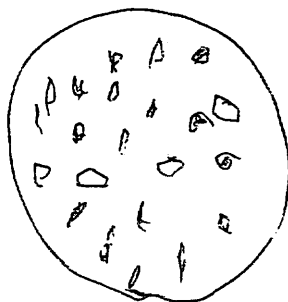
2/8 5:00 起床 ~ 6:40 出発 ~ 地蔵の頭 ~ 9:10 横岳山頂
~ 10-15 行者小屋T.S. ~ 11:00 山荘

2人で愛を語りながら横岳山頂へ。途中一ヶ所、地蔵の頭直下、ナイフのチリチリ音がして少し怖かったが、カニ足トラバースでみんなく抜けた。法政に別れを告げ、帰路に立った。

ホットケーキ



4ヶ所



山でハン系統は初めての体験。ウマイ!! ゼミうちもやう。

法政のみみター
いろいろおいしい話と食べもの
ありがとう



南アルプス（聖岳～光岳）

メンバー：L 梶原 恵（会4）、川井 純（会6）、井上 あゆみ（会1）

日程：2月19日～3月11日（実働7予備4）

2月19日（火）

7：00 起床
8：00 易老渡

9：45 西沢渡
15：00 2100mTS

前日に易老渡に入った。雪が多かった昨年を想定していたため、雪の少なさに驚いた。林道もラッセルを予想していたが、雪もなく快調に進む。西沢渡で滑車を使った川渡しに喜ぶ。尾根に取付いてからも雪が無く、2100m地点を今日のテン場とした。この夜は鍋で入山を祝った。

2月20日（水）

5：00 起床
6：50 出発
9：30 稜線に出る

13：20 聖岳
16：00 聖平小屋

さすがに2,000mを越えると雪もあり膝下のラッセルとなる。（まあ、かわいいものだ。）予定ではこの日は聖平小屋までだったが、時間も残りピストンをすることにした。稜線に出た所で荷物をデポしておき、聖岳に向かう。山頂までは特に危ない所はないが、滑り出せば、止まらない。気を抜けない所だ。山頂からは360°の展望があり、最高だった。聖平小屋はすぐに見つかった。小屋の中にテントを張り、快適な夜を過ごす。

2月21日（木）

5：00 起床
6：40 出発
10：40 上河内岳

13：10 茶臼岳
14：45 仁田岳下TS

この日も終日快晴であった。快適な稜線万歩だった。上河内岳も天気が良かったのでピストンした。この稜線は風が強く、雪も良く締まっていた為、思ったよりラッセルもない。聖から光の間は昨年の南ア全山縦走で行けなかった所なのでこの山行を出したのだが昨年とは違って好天が続き、順調過ぎて怖いくらいだ。

2月22日（金）

5：00 起床
8：05 出発

10：25 易老岳TS

朝起きてみると、雪が舞っていた。井上の体調が優れず、ルートも不明瞭なため、少し出発を遅らせた。歩き始めても体調が回復しないため、この日は易老岳までで行動を打ち切ることにした。ここまで来ればいつでも下山できるので気分は楽だ。テントを張り、川井さんと二人で明日の偵察に出る。「少し尾根が解り難いが、視界さえあれば心配ないだろう」という事で早々にテントに戻りまったりとする。エッセンは普段より少ない量を持つ

てきたはずなのだが、みんな小食なので連日のように食いしごき。4年にもなって食いしごきとは…

2月23日(土)

5:00 起床	10:15 光小屋
6:45 出発	11:05 光岳
9:50 イザルガ岳	14:20 易老岳 TS

イザルガ岳までは樹林帯のため、膝下のラッセルであった。この辺は秋に来ると最高であろう。光小屋は新しく、気の匂いのする良い小屋だった。一度泊ってみては？光岳は樹林に囲まれた、ぱっとしないピークだった。「まあ、こんなものか」と思いつつ、下山を開始。明日はいよいよ下山。「うまくいき過ぎている。」と思っていたら、このままで終わるわけはなかった。

2月24日(日)

5:00 起床	9:00 面平
6:40 出発	10:30 易老渡

面平まではワカンを履いて順調に下る。その先はツボ足で歩く。最後の最後に、雪解け水が氷になっていてアイゼンを履いた。最後まで気を抜けない。無事、易老渡に下山してみると、事件が待っていた。川井さんの愛車であるロゴのエンジンタンクに穴が空いていたのだ。易老渡までの石がゴロゴロした道で、きっと腹を打ったのであろう。とりあえず、軽くするために川井さんだけが車で伊那に向かい、伊那にいる松崎林太郎を呼んでもらう事にした。数時間後、林太郎が到着。無事伊那に帰れると思ったら、またアクシデント!!なんと林太郎の車のタイヤがパンクしたのだ。何とか携帯電話が通じる所まで行き、川井さんと連絡をとる。川井さんや林太郎の友人たちがみんなて迎えに来てくれた。結局伊那に着いたのは夜の10時位だった。最後の最後に散々な目にあったが、伊那の人々は本当に暖かかった。皆さん、本当にありがとう。

5.0/8月

唐沢岳幕岩

2/22~27 横山勝丘(4) 本間達弘(部外者/雲表倶楽部)

本来なら 20 日入山、28 日下山のはずだったが、諸々の事情により 6 日間に変更となった。二人とも風邪を引いての入山であった。

22 日。前日の飲みすぎがたたりに寝坊。車で入山。が、葛温泉から先のゲートが閉まっていて入れない。それでも何とかごまかして入り、七倉で荷物を降ろす。しかし…。東京電力の人に見つかり、お叱りを受け、あえなく葛温泉まで下ろされる。この日の登攀は却下となる。これもテロの影響らしい。それにしても面倒くさい…。幕岩も遠くなるなあ。とはいっても冬壁の中では非常に近いのではあるが…。

アプローチは膝下のラッセル。意外にも早く大町の宿に着く。この日はゆっくりとテン場で過ごす。翌日からの登攀に意欲が湧く。それにしてもあてにしていた S 字の氷は全然ないし、広島ルートにしてもめっちゃくちゃ悪そうな黒々としたスラブが露出しているし、こりゃ登る所あんの？ってな感じであった。

23 日。とりあえず足慣らしに二人とも登っている大凹角に行くことにした。前シーズンの 12 月に比べると雪も多く、壁全体で見ても雪は多いほうなので、期待できる。

1P 目、本間リード。雪壁から人工。抜け口は悪いフリー。その後のトラバースは意外にも良かったみたいだ。洞穴テラスまで。

2P 目、横山リード。ボサテラス上まで。いやぁ～途中に出てくるフリーの悪いこと。面白かった。極力フリーでいけた。うむ、満足。

3P 目、凹角を本間リード。意外にも悪い。イボイボを 1 本打つ。凍った草付に打ち込むアックスはよく効く。快適也。

4P 目、横山リード。出だしのスカスカアイスを超えて、あとは簡単な雪壁をひたすら登る。単調。

5P 目、本間リード。雪壁を右上。簡単。凹角下まで。

6P 目、横山リード。凹角を人工で越えてゆくが、なぜか途中でルートを外れてしまう。去年は間違いなく行けたのに…。振子で戻ろうとしたが出来ず仕方なく直上する。場所は出だし 5m 上から右壁の人工に移る所。正規ルートはそこを人工で越えた後、ランペを左上して最終チムニー下に入り込むのだが、今回は右壁に移らず、直上してしまった。残置があるので要注意。新しいリングボルトからの悪いこと！イヤー、怖かった…。アー、面白かった♪

7P 目、本間リード。チムニーの人工からスラブ。そして左のルンゼに入って右稜の頭へ。左のルンゼに入るよりは、まっすぐ草付ランペをたどったほうが流れを考えても良いと思う。終了点に着くころ日が暮れてしまった。

下降は右稜から。最初の懸垂点は怖い！僕が降りている時支点の枯木がゆっさゆっさと揺れており、本間さんは恐ろしくて仕方なかったらしい。そんなことは露知らず、

さしたる問題もなく下降終了。ベースについたときはもう時間も遅く、さっさと寝る。

大凹角は意外にも手ごたえのあるルートであった。これもやはり雪の付き具合によって変わってくるものであると思う。それにしても細かいところでの時間ロスが多く、やはりそこらへんの違いが上級者との違いではなかろうか、と思った。

24日。前日疲れていたなので、この日はゆっくり起きて島山ルートのFIXに向かった。島山ルートは中央カンテをフリー主体で登る好ルートである。僕は初見、本間さんもほとんど覚えておらず、新鮮な登攀ができるだろうと期待する。

下部の簡単なルンゼは雪に埋まっており、正規 2P 目の人工から始める。じゃんけんで先にやらせてもらうことにする。

1P 目、横山リード。フリーで雪壁をトラバースし、人工。この抜け口はアブミ最上段でも届かず、デイジーをはずし、アブミをかけているボルトにアイゼンを引っ掛け、ダブルアックスで抜けるという面白い場所である。いやー、いいね。あとは簡単な雪壁をひたすらランナウトで登る。立木まで。

2P 目、本間リード。すぐそばに見える人工ピッチの下まで。しかし、残置は全く見当たらずへんでこりんなエイドを駆使して登る。

ここからロープを 2 本 FIX して下降。あっという間に終わってしまったが、まあ前日の疲れも残っているのでいいだろうということになった。この日、ドリームタイムを登っていた YCC パーティは夜 11 時くらいになってやっと大町の宿に戻ってきた。そしてゆっくり休むまもなく東京に戻っていった。社会人は大変だあ。

25日。Go Up だ。暗いうちからしこしこユマーリング。明るくなるころ登攀開始。

3P 目、横山リード。チムニー左壁の人工。単調。

4P 目、本間リード。下部核心と思われたピッチであったが、残置が多く、意外にも順調に進む。雪がベトリだったらこうはいいっていなかっただろう。

5P 目、横山リード。快適な草付をダブルアックスで。ひたすらダブルアックス。ベツルの打たれたへんでこりんなバンドまで。IVくらいで、オールフリーでいける。

6P 目、本間リード。実質このピッチが核心であった。出だし、訳のわからんランナウトを強いられる。信頼できる支点まで約 15m。夏だったら快適な凹角スラブなんだろうが…。吠える。その上で今度はルーファイに手間どり、時間を食う。結局氷漬けのボルトをほじくり出して何とかルートを見出す。

7P 目、横山リード。大広間テラスまで。夏は快適なⅢのスラブ。冬はアイゼン手袋でガリガリいわせながらの”快適な”スラブ。傾斜は全然ないのにきわどいマントルを返したりしているのはすべてアイゼン手袋のせいだ。ある意味面白いピッチ。滑稽だ。ただし、50m いっぱいいっぱい支点は 6 個くらいしか取れない。しかも最初は強引に決めたカムしかなく、なかなかヤバ系。落ちたら前のピッチまで吹っ飛ぶだろう。後で気づいたら、5m ほど左にはリングボルトがあった…。畜生…。初見はツライ…。

不覚にも大広間テラスについた時点でこの日に上まで抜けるのは時間的に無理とい

うことになった。ここから先は良いビバークポイントを探しながら進むことになった。

8P 目、本間リード。すぐ上のチムニー下まで。快適なフリー。

9P 目、横山リード。凹角を快適なエイド。そしてブッシュに突っ込む。だんだんと下部と様相が変わってきた…。うーん。

10P 目、本間リード。苦むした凹角の人工。うーん。お世辞にも快適とは言えない。

11P 目、横山リード。もう暗くなってきた…。良いビバークポイントもなく(というより、チムニー下とかはまあまあ良かったのに、僕が無理やり突っ込んでしまった…)、いい場所を探して進む。変な人工から、左のバンドへ。

12P 目、本間リード。ツボる。全くルートがわからん(下山後別のルート図を見たところ、ほとんど登られていないオリジナルルートに入り込んだらしい)。何度も右往左往し、半ば切れ気味に吠えつつ、猛烈なブッシュに突っ込む。立木でビレイ。ここは整地すれば二人が座れるくらいの場所を確保できるため、急いで整地する。簡単に夕飯を喰らい、さっさと寝る。あ～もう 11 時だ～。

26 日。快晴。重い腰を上げ、登攀に移る。もうほとんど最上部まで来ているはずだ。

13P 目、横山リード。相変わらずよくわからん凹角を登り、途中から氷。意外に悪い。50m ippai で緩傾斜の樹林帯へ。終了。

ここからコンテでひたすらトラバース。右稜の頭近くでロープをはずす。前日より溜め込んでいた排泄物を一気に出す。プハー、しあわせ♪

下降は右稜から。うーん、確かに揺れている…。怖くなって後ろの木からシュリング 6 本も継ぎ足して補強した。命には代えられない。まあなくても平気なんだろうけどね、気分が悪いので。

この日はささやかな祝杯をあげて寝る。アー、楽しかった。

27 日。本当は S 字や広島、西壁ルンゼを登りたかったが、氷がないことと、時間の関係で下山することにした。下降は早い。高瀬ダムまでなんと 1 時間。葛温泉で風呂に入り、帰松。

感想。面白かった。また行きたい。幕岩は冬の岩だ。来年は広島と山嶺第一だ！

それにしても畠山はツボってしまった。これは限りなく初見に近かったことと、やはり、ルーファイ能力の低さが考えられる。登ることにしてはさしたる問題はなかったと思われるので、今後はやはり経験を積むしかないのだろう。あらゆる意味での時間の計算も難しいと感じた。うーん、それだけにやはり冬壁は面白い。

畠山ルートに関しては、下部はとてつもない。岩の固さやロケーションなど申し分なし。上部は…。うーん、日本らしいとでも言っておこうか……。

良い経験をした 6 日間だった。また行こう。

幕岩(冬の)最高!!! 夏は最悪。

3/10・11 霞沢岳上千丈沢左稜

横山勝丘(4) 岸本俊朗(5) 佐藤祐樹(2) 片寄哲生(1)

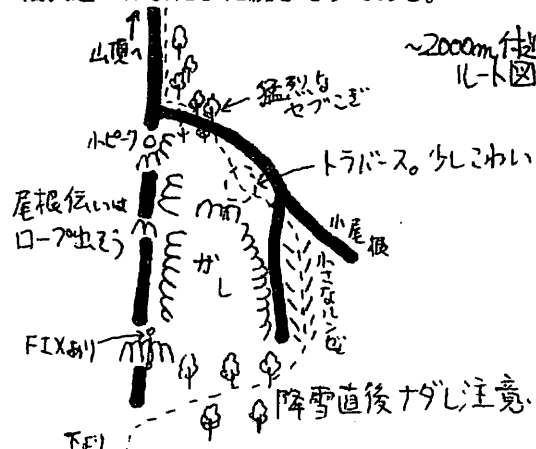
霞沢岳。うーん、いいねえ〜この山は。2年前、西尾根から六百山に抜けたとき、カッコイイ尾根があるのを私は目ざとく見つけてしまった。その時以来是非ともその尾根を抜けてやろうと躍起になっていたもんだ。去年は皆にふられ、今年ようやくチャンスは巡ってきた。下部の未知なる部分に備え、ガチャを増やす。準備万端。

10日。中の湯に路駐して出発。駐禁とられないかしらん。下山まで不安が残る。普段より雪は少なく快適に進む。上千丈沢の先より尾根に取り付く。尾根は雪がほとんどなく、夏と変わらず。時々現れる岩壁はどれもこれも簡単に巻ける。拍子抜け。まあ、さっさと登ってさっさと下りるというのも手だろう。ぐんぐん尾根を詰めていくと、一ヶ所ルーフアイの難しいところがある。ここをうまくやり過ごすと、あとはひたすら急な草付を灌木伝いに攀じ登る。荷物を背負っているとなかなか腕がパンプする。ロープは出すまでもないだろう。2200m付近に良いテン場があり、この日は時間も早かったが、日和って終わりにする。夕方から雪が降り始める。

11日。テン場から先は細い尾根や、相変わらずの木登りに終始する。所々急な雪壁が現れるが、ロープを出すまでもない。途中一ヶ所、コルに下りるところで尾根沿いにいくと壁になっているので右から巻く。その登り返しは深いラッセルの急な雪壁で、はっきり言っとうざったい。忠実に尾根を詰めていくと右稜とのジャンクションピークに出る。ここから先は岩稜帯となっているが、右から簡単に巻ける。最後の壁に見える部分も、左の樹林帯を簡単に木登りで越えられる。かくしていとも簡単に稜線に抜ける。稜線からの眺めは最高。とくにこの尾根の抜け口はいい。プワ〜という開放感に浸れる。稜線をたどって山頂へ。山頂は風が強く、さっさと西尾根を下山。西尾根は問題なし。昼過ぎには林道に降り立ち、帰松。車は無事であった。

この尾根は技術的な難しさを求めるにはいささか不満は残るが、積雪期に霞沢岳を下から詰めるにはすっきりした良い尾根であると思う。今年は雪の量が半端じゃなく少なく、もう少し雪が増えていればある程度技術的にも楽しめるかもしれない。実際、一年の片寄にとっては、なかなか恐ろしい部分もあったという。1・2年のスキルアップにも最適であると思われる。ともあれ、この尾根の魅力はなんと言っても上高地で自分のラインが引けること、ではないだろうか？

これはこの尾根に限ったことではない。霞沢岳にはこのような尾根、谷、壁がまだまだある。あのそれほど大きくない山一つに、未知のラインがたくさんある…。霞沢通いはまだまだ続きそうである。



甲斐駒ヶ岳 (黒戸尾根)

期間 5月3日・4日

メンバー 高谷英太郎 片寄哲生 大木信介

中央本線からの雄姿を見て以来、甲斐駒はとても登りたい山の一つになっていた。そこで、今回のゴールデンウィークを利用して黒戸尾根から甲斐駒に登る事にした。

一日目。ポンドさんの車で登山口である竹宇駒ヶ岳神社へ。放火されたのか分らんが、神社の本殿が全焼していた。この日は天気も良く、登山道にも全く雪が無く夏山のようなようであった。しかし、なぜかわたしが履いていたのはプラ靴。なんの苦労も無く順調に高度を稼ぎ、刃渡りなどを通過して、12時頃には五合目に到着。七合目まで行こうと思っていたが、予定を変更して、ここ五合目にテントを張りのんびりする事にした。早速、わたしと哲生で水場を探しに行ったがなかなか見つからず、水滴がしたたっているところで地道に水をため結局1時間半もかかった。そして、天場に戻ろうとすると、天場から1分もしない所に水流を見つけ虚しくなる。この天場では青学の人と交流をもった。飯を食い、就寝。

2日目。この日は昨日の晴天とうってかわり曇って、頂上付近はガスって展望は0。雪も出てきたがアイゼンを使うまでもなく、プラ靴を履いてきた自分が一層哀れでかわいそう。頂上まで2ピッチ、頂上から神社まで2ピッチと素早く下山し、わたし達は、いざフリーの地不動沢へ旅立ったのでした。

甲斐駒は、やはり素晴らしい山だった。技術的には、少し物足りないところもあったが、私自身剣での事故以来初の山行であったのでちょうど良かったのではないのでしょうか。以上、今年の秋までに実力を上げ甲斐駒の岩場に挑もうと夢見る英太郎君でした。

梅池～白馬岳(雪上訓練)

Xバー. 佐藤 横山 期間 20.21
片寄 梶原
高谷

4/20 8:00 リフト降口発 ~ 9:00 梅池山荘 ~ 10:00 天狗原T.B.

毎年この時期は忙しい。この次の日はカイトダンス、新歓コンパ、ザイル講習、小総会、合同岩トシ……と人ごみ。あのキムタクよりも忙しい人ではないだろうか。しかしこの時期の山でからいいもんだ。やむを得ず求めて(今風に言うと「イマジ?」)山に入った。途中、山スキーに来ていた中山島さんと小久保さんにお会い。周りにはみんなスキー客。自分はハッとした。我々下「付」セ、バイル、バイル、スコップ……。スキーを持ってこなかったのは深く後悔した。リフトを降りて2Pで天狗原に下り。その目元にある斜面で雪上訓練することにした。雪上技術の基本から、SAB、コンテ等を訓練し、今日は就寝。

4/21 4:00 起床 ~ 5:00 出発 ~ 7:00 リフト発着所。

朝からがス。がス。がス。回復が見込めないのでさっさと山を降りる。途中のスキー場では、スキーでビュンビュン走っている人の隣を走ると歩いていく。来年は絶対スキー!!! (去年もそんなこと言ったよな。)



1年の
総括
おめでとう

反省と抱負

井上 あゆみ

昨年、私がやっていたのはまさに受け身の登山だった。行けと言われて岩トレに行き、深く考えずに上級生の出す山行にシッポを振ってついて行き、山に入っても上級生の言うことさえきけば何とかなった。冬合宿も、私は「行った」のではなく、「連れて行ってもらった」にすぎない。

しかし、もうそういうわけにはいかない。2年生になった！正直言って、2年生としてやっていくのはかなり不安である。逃げ出したくもある。でもそういう時はこの1年間に体験したいろんな事を思い出そう。テントが2回も潰されたこと、1日15時間行動した日のこと、冬合宿で、稜線って所はいつも風がビュンビュン吹いているものだとか勘違いしたこと…。下らないかもしれないが、どれも私には一大事だった。そして大なり小なり私の力になっていると思う。この力を自信に変えて、早く「私は2年生です」と胸をはって言えるようになりたい。

今年度の反省

片寄哲生

今年度、と一言にまとめるにしてはとんでもない一年を過ごしたものと、今さらながらに思う。そうか、寒さとビビりでふるえながら懸垂を教わった、医短の階段での出来事からももう一年になるのか。こわかった……。そうだ、今年の一年はこわいことが次々に現れてくる年だったなあ。懸垂下降に始まって、物見岩の初岩トレ、立岩、涸沢（ダッシュ）、檜、チムニー、剣、アイゼン岩トレ、ラッセル、冬の稜線、凍傷・・・考えてみればごっちゃごっちゃでてくるもんだ。

でも、こわいというのは、反省とは違う。今年度の反省としては、まず第一に、事故を起こしてしまったことを挙げる。この一事に限らずその他たくさんの反省点があることは確かだけれども、来年度を目前にした今、万事に優先してこのことを第一に置きたい。たった一年の経験の差に過ぎないにしろ、この春入ってくるのは自分が目を配らなければならない人間なのだ。下級生に限らず、会全体を通して事故を起こさないように努めたい。事故だけは絶対だめだ。

山行中における反省の細かいひとつひとつは省略する。なにやら、事故はいけないと思ったらそのことしか頭に浮かんでこなくなった。

・ 来年度への抱負

“自分の山登りを見つける”

この一言に尽くそう。自分らしい山登りを見つけよう。僕が行きつくべきところが山にあるのか、それだけだ。

来年度の現役は実質、佐藤さんを始めとする計四名。佐藤さんをサポートするというよりも、信大山岳会員として重い気構えをもって活動したいと思う。

まもなくすれば、上田に移る身でもある。活動の拠点—松本から離れる分、松本ならばの岩トレ等によるモチベーションを失わないよう肝に銘じておきたい。

去年の反省と今年の抱負 高谷英太郎

去年の反省としてまず第一に挙げられることは、自分自身で判断しすぐ行動に移すという事ができなかつたことである。今年は上級生にもなるので自分から率先して行動してゆけたら良いと思う。次に挙げられるのは、体カヤフリークライミングの技術についての反省である。体カについては自分自身を最後まで追い込むことができずに、自分でも悔いの残る一年となつてしまつた。フリークライミングに関しては、自分がフリークライミングが苦手ということもあつた。どこか毛嫌いしてしまひ、一年を通して技術の向上のための努力を怠つてしまつた。この二つについては、去年の反省も踏まえて自分の納得のいくまで自分を追い込んでゆけたらと思う。

去年は、いろんな意味で自分に甘えてしまつた一年であつた。今年は、自分がしたい登山に一歩でも近づくよう、自分に甘えず、山に積極的な自分でありたいと思う。

2001年度 佐藤 祐樹

総括

この一年間 激しく燃えていた。

燃えカスは決して灰ではない。

それは宝であった。

この一年間 激流であった。

ふり返って見る。

そこには美しい渓谷があった。

抱負

自分の可能性が「許すかまじ」でできる

すべてのことをやりたい。

自分の山登りに関しても 山岳会に関しても

そして自分の可能性をより広く深くしていきたい。



一年間の総括

松寄林太郎

今振り返ってみると、4年間というのは長いようで本当に短いものだった。特に4年目は変化に富んだ一年であり自分の中では一番印象深い一年になった。

3年の終わりに4年目の抱負といわれて、書いた文章を読み返してみる。まあ、書いてあることの1割も実行できなかった。4年という役割、そして自分のやろうと思っていたことができたのか自分でもはなはだ疑問である。裏を返せば今まで上級生についてきてばかりで、4年になった時の自分についての展望、目標が甘すぎたということだろう。その点については、今更反省の仕様もない。しかし、この一年で感じたことは他のことや来年の活動でも生かされるだろう。

それから、4年になった時から上級生内での意思疎通ができていないということが言われていた。合宿のような皆で行く山については、やはりリーダーの判断、方針に沿う形で必要な時にのみ意見を言うのがベストであると思った。また、一年間のそれぞれの活動については年の始めにジャンボが言っていた方針に賛成したもののそれに対して行動できなかったのは申し訳ないと思っている。まあ、年間を通じて振り返るとそれぞれが役割を分担していくことができているようになったとおもう。ポジティブに文章を書こうとしてつい変な文になってしまったが、結局のところはもう少しそれぞれが腹を割って話せるようになることを望んでいたような気がする。しかし、皆山が好きなことは共通していると思う。最近山岳会から少し距離を置いてみていい仲間に出会えたのだとしみじみ感じることもある。いつも刺激を与えてくれ、温かく見守ってくれる上級生。理不尽なことでも素直に聞いてくれる1,2年生。山を介していろいろな人と付き合うことにより自分に多くの影響を与えられたように思う。そして、それはあくまで登山という行為を共にして来たことで得られたことと思う。

山の楽しさを存分に教えてくれた山岳会…ありがとうございました。

総括と抱負

山岳会の4年間というのは伊達じゃない。

山程、自分の実力や身の丈がはっきりと分かるものは、他にはないと思うし、

上級生から、同期の奴らから、時には下級生からも、

山での行動で、ふだんの何気ない言動で、

自分には欠けているもの、足りないものを見せ付けられる。

そこから学んだこと、感じたことは数多い。

4年間ただ、楽しかったわけではなく、くやしかったり、情けない、と思ったことは何度もあった。 それを感じることはとても大切だと思う。

本当にそう思った時、自分を変えられる。

4年前と、今の自分では全然違う。 ちょっとは成長できたかな？

大事なことは、自分の足でしっかりと立つこと。 そして周りに対して、今の自分に何ができるのか。 さらにもう一歩先、何をしたいのか。 考え、行動すること。

一人一人の存在というのは、じぶんが思っている以上に、でかい。

自分の目を見て、自分の頭で考え、自分の言葉を喋る。

自分の手を使い、自らの足で行動する。

そういうひとに、僕はなりたい

いつでも、ひとは変わり得るし、

その可能性は、自ら捨てない限り、誰にでもあると信じている。

10年、20年先も、それを追いかける自分であればと思う。

まだまだこれから。

「次に何を指すのか」、それを選択する自由のある自分は幸せだ。

その分、精一杯やる義務がある。周囲の理解に感謝。

そして信州大岳山岳会という、大きな土台、器、がこれからも受け継がれていくことを願う。

なんか、随分硬い文になったが、要は、自分が満足のいく生き方をしたいということなんだろう。

とりあえず今は、目の前の事をこなしながら、これから先をゆっくり考えたい。

「終わり」は新たな「始まり」への一步。

2002・2・6 元4年 knock

♪一年間の総括・来年度の抱負♪

9856024H 横山 勝兵

皆さん、一年間お疲れ様。この一年間リーダーをやらせてもらったが、とても充実した最高の一年間を過ごすことができた。どの合宿も中身が濃く、楽しいこともつらいこともすべてひくくめて良い思い出である。今年一年の感想を挙げたらきりが無い。いえるのは、良い仲間にも恵まれたこと、一年生に様々な体験をさせてあげることができたこと、そして、無事故で一年を終えることができたこと、である。これは本当に良かったと思っている。

もちろん、反省も多々あるが、それは個々の合宿なりで挙げているのでここではいわない。ひとつだけなかったのは、一年生に強烈な体験を強いてしまったこと。これは良くも悪くも取れるが、上級生がもう少し的確に判断を下せていても良かったのではないかと見ることもできる。冬合宿はその典型であり、上級生といえども、いや、上級生だからこそ、より多くの山に登って、より深い経験を積む必要がある、ということを改めて認識させられた。これでOKということは有り得ない。日々精進すべし。

その観点から、これから上級生になる者もいることだし、ひとつ言っておこう。今年、僕から言わせれば、皆山に登っていない！個々のモチベーションの差はもちろんあるだろうが、それでも少なかった、特に後期は。もちろんよほどのことがない限り、上級生は普通に一年生を率いて山に登ることくらいはできるだろう。でも、それだけで良いのか？せつかくこれだけの環境（山岳会という組織、周囲を山に囲まれている立地条件など）に恵まれながら、山に行かないのは、余計な理屈はともかく、なんとも寂しいのである。また、上級生として最低限必要なレベルというものがあるのはわかっているだろうが、それは、「上級生」として一つに括れるのではなく、2年には2年の、3年には3年の、4年には4年のレベルというものがあるということを知っておいたほうが良いだろう。まあ、やっていればわかってくると思う。

とはいっても、非常に楽しい一年間だったことは間違いない。また、合宿等で、上級生の役割分担が今年は非常にスムーズにいったように思う。これはかなり評価できることではないだろうか。リーダーにしてみれば、非常に助かったわけだ。どうもありがとう。

4年生、とにかくお疲れさん。まあ、あつという間の4年間だったけども、これからもよろしく！4年間の現役生活は終わったけれども、僕はこれからも変わらず山岳会に在ることになりそうなので、そこんとこよろしく。どれだけ大学に残れるのだろうか？ぐふふ

これから先、中心になってやってゆく佐藤をはじめ4人、まあ、心配はしていません。個人個人の良いところ、課題等はもちろんたくさんある。でも、どうせほかの上級生がアドバイスしてくれるだろうから、僕からは言わない。上級生の自覚というものは心身ともにみっちり活動していれば自ずと身につくものだと思う。気負わず、でも一生懸命にやってほしい。上級生不足で大変ではあるが、いいように考えれば、1年目は試行錯誤になるかもしれないが、2年目は本当に自分のしたいことができるようになると思う。これは個人の活動でも、会としての活動

でも言えることだと思う。ちょっと羨ましかったりして…。5年生は最大限協力するはずだから、肩肘張らずにやってほしい。存分に5年生を利用しなさい。利用して利用して踏み台にして成長して行ってほしい。これだけ強烈な個性の集まる山岳会では、したたかさが必要。指示待ち人間にだけはなるといい。わかった？

4年間やってきて個人的に感じたことを少し。登山は自己満足。それだからこそ、ただ漫然と登っていたり、人についていくだけの登山ではいかん。個人の好みとかそんなことを言う余地はない。レベルは関係ない。自己満足なのだから。ただし、こだわり、ビジョンを持ってやって行ってほしい。これがなければダメ！誰がなんと言おうとダメ、絶対！なぜかって？今ここで書くのは面倒臭いから、書かないけど、しっかり山岳会で山に登っていればわかるはず。興味があつたら、飲み会のときにでも話そう。それか、ピョンド・リスクという本でも読んでみて。まだ理解できない部分も多いかもしれないが(もちろん僕もまだまだだが)、だんだんわかるようになってくれたらうれしい。あと、さっきレベルは関係ないといったが、もちろんそうなのではあるが、やはり向上心というものがなければダメだと思う。単純にレベルが高いほど登れる山の幅も広がるしね。さっきも言ったけど、せつかくこれだけの環境で山を登っているのだから、中高年のぼばあと同じことをやっているのは馬鹿げたことだとは思わんか？年寄りみたいなことを言うのはまだ早い。一人一人の自主性に期待する。

大それたことを言うかもしれないが、登山は想像力と創造力がものを言うのだと思う。そしてそれを実践するのに見合った体力、技術、経験、精神力。何回これを言ったことだろう。こだわり、ビジョンというものはこれらの実践の蓄積から生まれてくるもの。また、こだわり、ビジョンを持つことで、新たな「創造」が可能になるんじゃないかや？こういうことって、自分のためだけではなく、後輩に対しても良い影響があるのだと思っている。山を何も知らない1年生は何を見て成長するか？それは疑う余地もなく、上級生である。奥いことを言えば、情熱を全て後輩に伝えるべし。また逆も然り。上級生だけでなく、周りの人間を見て、その魂から技術から何からなにまで吸い取るくらいの気持ちが必要なのだと思う。

まだ新二年生には良くわからないかもしれない。無理にこだわり、ビジョンを作る必要はない、というか、そんなんでは何の意味もない、というのはわかるだろうけども。さっきも言ったけど、しっかり山岳会で山に登っていれば自ずと見えてくる！と僕は勝手に信じているんだけど。少しアドバイスを。やっぱりがむしゃらに山に登ることも必要。落ち着くほど経験も技術もないのだからやれるだけやったほうが得！ちなみに私は未だがむしゃらに登っている。それともうひとつ、当然のことだけど、山・山岳会を好きでいること。これが根本だね、やっぱり。

ということで、この4年間を総括すると一言、「すべて楽しかった」。それ以外は何もない。錫杖の開拓はこの4年間の集大成だと思っている。もちろん自分のためではあるけど、皆が何か感じてくれたら、最高にうれしい。もし、何年後に、後輩があそこを登ってくれたら幸せだな、と思う。今回の結果はレベル的にも、気持ちの面でも、100%の結果だと思っている。みんなにもそういう登山をしてほしいと心から思う。ただし、あれはあくまでも！4年間の集大成であってこれからもっと激しいことをやるつもりなのでそこそこよろしく。以上！

信州大学山岳会 会員名簿

【4年】

<u>横山 勝丘</u>	理4・物循	松本市浅間温泉 2-10-14 市川荘	090-6489-9534
CL	98S6024H		
松本地区長	S54.4.5	神奈川県相模原市東大沼 4-2-14	042-743-3743
Box	O型	勝芳	
<u>横山 輝生</u>	織3・応用	上田市中央 2-14-3 美鈴ビル 309号	0268-25-5256
SL	98F1038J		
上田地区長	S52.6.14	新潟県中蒲原郡亀田町城山 4-4-36	025-381-7348
	B型	正勝	
<u>梶原 恵</u>	教4・生スポ	長野市三輪 9-9-15 アネーロみわ 201	090-9587-0117
長野地区長	98E7102K		george@su.valley.ne.jp
	S55.3.17	福岡県福岡市城南区茶山 2-2-23	092-845-6066
	O型	恒司	
<u>松崎 林太郎</u>	農3・森林	松本市大村 4 6 3 中西アパート 8号	0263-46-5966
保険・遭難対策	98A2054A		rintarou@h6.dion.ne.jp
伊那地区長	S54.10.7	長野県上田市本郷 789-3	0268-38-7350
サマテン	O型	務	

【2年】

<u>佐藤 祐樹</u>	理2・物循	松本市岡田町 4 1 8 - 口	090-2819-3009
会計	00S6017B		
特別会計	S56.8.5	札幌市西区西野 11条9丁目 3-30	011-663-2313
	B型	敏和	

【1年】

<u>井上 あゆみ</u>	理1・数理	松本市浅間温泉 2-12-6-307	090-8227-3672
BOX	01S1005E		
	S57.9.18	福岡県前原市前原 462-1-701	092-324-7045
	A型	隆司	
<u>片寄 哲生</u>	織1・応用	松本市越ヶ崎 6-24-2 こまくさ寮 2E-239号室	090-3697-4879
サ協	01F1021F		
	S56.12.13	茨城県日立市川尻町 7-37-2	0294-43-6532
	B型	博光	
<u>高谷 英太郎</u>	経1・経シス	松本市大村 560-2	090-3234-3950
サ協	01K2026J		
	S56.9.8	茨城県筑波郡伊奈町野堀 262-1	0297-57-0713
	O型	俊一	

[5年]

岸本 俊朗

人4・人間

松本市大村 463 中西アパート 3号

0263-46-7041

97L1031F

shunrou@su.valley.ne.jp

S53.4.6

千葉県野田市春日町 46-1

0471-29-8466

A型

竹志

大木 信介

人4・人間

松本市浅間温泉 3-11-5 松の湯松の間

0263-45-5443

97L1015D

bondinto@yahoo.co.jp

S54.2.2

埼玉県南埼玉郡白岡町新白岡 3-25-11

0480-92-4791

B型

進

日高 弘次

工4・社開

長野市若里 4-19-20 碓井荘

090-2903-7290

97T3081F

t973081@mail.shinshu-u.ac.jp

S53.2.19

兵庫県宝塚市雲雀丘 3-7-1

0727-58-5159

O型

洋一

[6年]

川井 純

理院2・教理

松本市沢村 1-14-4

0263-34-5042

96S1013H

ポピーハイツ黒岩 3号室

kamonoha@su.valley.ne.jp

S52.2.13

神奈川県横浜市泉区領家 3-1-4-306

045-811-9524

AB型

フサ子

[7年]

原田 亮介

理4・生物

上田市大字古里 1692

0268-21-0506

95S5019E

清水アパート南側

S51.8.26

愛媛県今治市荒谷甲 1470-5

0898-47-3402

A型

富佐男

燃焼

SAC

印刷：松本

印刷日：5月8日

編集：井上
表紙